

## 第2回未来へつなぐ持続可能なインフラマネジメントのあり方検討ワーキンググループ 委員からの主な意見

### (1) 橋梁の維持管理・更新の方向性

#### 【A委員】

- ・全ての橋に「目標性能」を決めて、橋ごとの役割を住民に示していくべき。(＝橋の維持管理レベルにメリハリをつける)
- ・代替路の有無などを含めた見やすい資料を提示して、橋梁の状態や役割を県民に分かりやすく示す「見える化」が、合意形成を進める上で重要である。
- ・橋を集約・撤去する場合の県民1人あたりが負担する費用の「見える化」ができればよい。
- ・健全性・重要性の2軸だけでなく、費用対効果、将来の維持管理費も指標に加えるべき。
- ・時間の経過により健全性は低下するため、水切り材を設置するなど劣化を遅らせる予防保全や延命化の視点が必要である。
- ・市町村管理の橋も含めて、県全体で橋梁を最適に管理する「オール富山」の視点が重要である。

#### 【B委員】

- ・大型車を規制することで橋の延命化ができるのではないかな。
- ・橋だけに着目するのではなく、道路ネットワークの一部として考えるべきなので、その道路が例えば避難路として使われているなど、誰がどのように使っているかを把握する必要がある。
- ・県道橋と市町村道橋を個別に考えるのではなく、相互に調整しながら管理していくことが重要である。
- ・将来的には、県と市町村が橋梁管理について協議できる場を設けることも考えられる。

#### 【C委員】

- ・緊急輸送道路など止められない橋を含む「大きなインフラ」と、生活に密着した「小さなインフラ」を分けて考えるべき。
- ・人口減少を理由に維持管理が難しいというだけでなく、将来の地域の活力を支えるインフラという前向きな視点も必要である。
- ・重要性や健全性は社会状況や地域の変化により変わるため、定期的な見直しが必要である。
- ・集約・撤去の対象となる小規模インフラについては、住民と協働で考えることが重要である。

#### 【D委員】

- ・誰でも自分に身近な橋は残したい。橋の優先順位をつけるときには十分に時間をかけた住民への丁寧な説明と納得が必要であり、大きな課題である。
- ・県民に現状や課題を少しずつ伝え、問題意識を共有していくことが重要である。

#### 【E委員】

- ・大きな視点では防災や緊急輸送、小さな視点では生活者の動線など、メッシュを分けて考えるとよい。
- ・通学・通院だけでなく、保育園の送迎や習い事など、複雑な生活動線を把握する視点が必要である。
- ・人流データなどを活用し、災害時の避難行動や日常生活における橋の使われ方を分析してはどうか。
- ・生活者の視点を丁寧に反映しなければ、県民の理解は得られにくい。

### 【F委員】

- ・健全性と重要性に分けて整理する考え方はよいと思う。
- ・交通量が多く、緊急輸送道路に指定されているような幹線道路上の橋は、重要性が高いものとして優先的に対応すべき。
- ・通学や生活者視点に関わる橋は、地域ごとの事情が大きいため、基礎自治体と連携して実情を把握する必要がある。
- ・重要性の判定には、地域の細かな事情を丁寧に確認する作業が必要である。

### 【G委員】

- ・重要性が高い橋、特に第一次緊急輸送道路上の橋は、手厚く維持管理する必要がある。
- ・災害時に仮設橋をどう設置するかなど、万一の場合のシミュレーションが必要である。
- ・センサーやカメラの活用は、効率的な監視のためだけではなく、多くの橋にもっと活用し、橋の劣化状況や交通量のデータを収集すれば有意義なデータになる。
- ・橋の劣化状況や交通量のデータに基づく説明は、集約・撤去を検討する際の住民理解にもつながる。

### 【H委員】

- ・住民への説明、段階的な検討、代替手段の提示などを丁寧に説明しないと、集約・撤去にもコストがかかることになる。
- ・日本では橋を撤去・集約する経験が少ないため、実施方法そのものも検討が必要である。
- ・「橋がなくなると不便」という説明だけでなく、「橋があることで時間が短縮されている」という前向きな伝え方も重要である。
- ・インフラを財産として大事に使う意識を育てるコミュニケーションが必要である。

## (2) インフラ自分ごと化企画案

### 【A委員】

- ・企画は良いが、子どもが自発的・主体的に楽しめるよう、もう一工夫が必要である。
- ・大人が用意した段取りをこなすだけでなく、子ども自身が考えて取り組める内容にするとよい。
- ・小学生だけでなく、中高生、大学生、20代など、より上の世代への展開も検討すべき。
- ・橋カードやアプリなど、若者が興味を持ちやすい企画も考えられる。

### 【B委員】

- ・子どもたちにインフラを意識してもらうことは重要であり、今回の企画は評価できる。
- ・学校行事や職業体験などに一部メニューを取り入れる方法も考えられる。
- ・「自分が使う橋だけが大事」とならないよう、地域全体を俯瞰する視点も必要である。
- ・限られた財源や人口の中で、橋を残すのか、学校を残すのかなど、様々な選択肢を選びながら最後にその町がどうなるかを考える、「SIM 熊本」というシミュレーションゲームがある。このゲームも「なぜ集約・撤去が必要なのか」を考える「自分ごと化」の一つのきっかけになるのではないか。

### 【C委員】

- ・まず実施し、その後、毎年見直ししながら継続していくことが重要である。
- ・建設業やインフラ分野に子どもたちが関心を持つよう、仕事の魅力を伝える要素も加えてほしい。
- ・ドローンや遠隔操作など、建設分野のDXや先進技術の体験を盛り込んでどうか。
- ・マイクラフトなどゲーム性のある取り組みや、夏休みの自由研究につながる時期設定も有効。

### 【D委員】

- ・「インフラをつくり支えるお仕事体験」を盛り込んだことは評価できる。
- ・幅広い世代に自分ごととして考えてもらうには、広報の工夫が重要である。
- ・県の広報誌などを活用し、現状や課題を継続的に発信していくべき。
- ・小学校の社会科見学など、学校教育のカリキュラムに取り入れることも考えられる。

### 【E委員】

- ・企画は楽しそうであり、親子で参加しやすい内容になっている。
- ・橋の便利さ体験は、単に遠回りするだけでなく、子供たちに楽しい任務を与えるなどゲーム性を持たせるとより効果的である。
- ・子どもだけでなく、保護者も巻き込んでインフラの重要性を深く理解してもらう工夫が必要である。
- ・アンケートを活用し、参加者の意見を踏まえて継続的に改善していくことが重要である。

### 【F委員】

- ・企画は継続して行うことが大事である。
- ・橋を集約・撤去していくには「少なくとも10年以上の合意形成が必要」という話も聞くので、自分ごとは中高生や大学生を含めた若い世代を対象に重点的に進めていく必要がある。

### 【G委員】

- ・インフラについて知り、愛着を持ち、社会的意義を理解してもらう早期教育は非常に重要である。
- ・親子参加の形式は有効であり、子どもだけでなく保護者にもインフラの重要性を改めて理解してもらうことが大切である。
- ・子ども向けの説明とは別に、保護者がより深く理解できる資料や情報提供があるとよい。
- ・親子別のアンケートは有効であり、保護者の意見も聞きながら、継続的に企画を改善していく流れが望ましい。
- ・参加者だけでなく、より多くの県民にイベントやインフラの重要性を知ってもらうため、広報にも力を入れる必要がある。

### 【H委員】

- ・中高生に対する体験機会は、将来の進路選択にもつながるため重要である。
- ・土木・社会基盤分野でもドローンなど最先端技術に関われるということを見せる重要な機会にもなる。
- ・継続的に実施しつつ、対象者を変えながら展開していくことが望ましい。
- ・女子学生を含め、幅広い層に土木分野の魅力を伝えることも重要である。